

令和3（2021）年さけます来遊状況（第4報:11/30現在）

4 サケ年齢組成と体サイズ

国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所 さけます部門 資源増殖部

- 全国の11月末時点での年齢別来遊数を推定すると、4年魚（2017年級）は前年および平年*1を下回る
- 5年魚（2016年級）は、前年を大きく上回るが、平年*1を大きく下回り、1994年以降で3番目に少ない
- 北海道の平均体重は3.15kg、本州の同体重は2.90kgで前年とほぼ同等

*1：平年とは、平成6（1994）～令和2（2019）年の平均値

・サケの年齢組成

（全国）

全国の主要な河川に回帰したサケの年齢査定をもとに、11月末時点における年齢別来遊数を推定したところ、4年魚（2017年級）が全体の58%を占めて最も多く、5年魚（2016年級）及び3年魚（2018年級）がそれぞれ23%、17%となっています。4年魚は、前年同期の75%と前年を下回っていますが、5年魚は前年同期の261%と大きく上回っています。平年同期との比較では、4年魚は40%、5年魚は25%となっており、4年魚および5年魚ともに1994年以降で3番目最も少ない状況です。また、3年魚は前年同期の121%、平年同期の105%となっています（図1）。

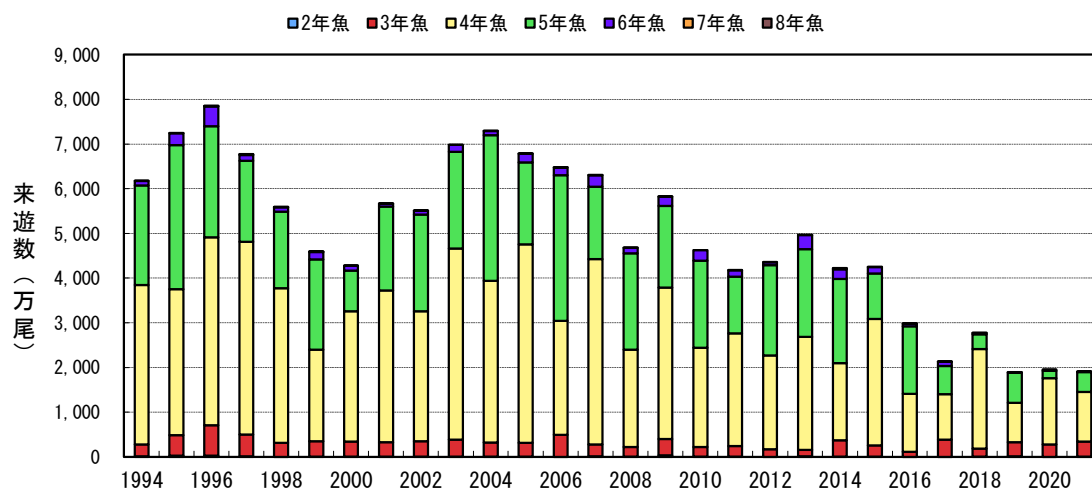


図1. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（全国）.

(北海道太平洋)

北海道太平洋側（根室海区～えりも以西海区）では、4年魚（2017年級）が全体の59%を占めて最も多く、次に3年魚（2018年級）が22%を占め、5年魚（2016年級）が19%と続いています。4年魚は前年同期の65%、平年同期の18%となっており、1994年以降では2番目に少なくなっています。5年魚は前年同期の92%、平年同期の9%となっており、1994年以降で最も少ない状況です。また、3年魚は前年同期の130%、平年同期の77%となっています（図2）。

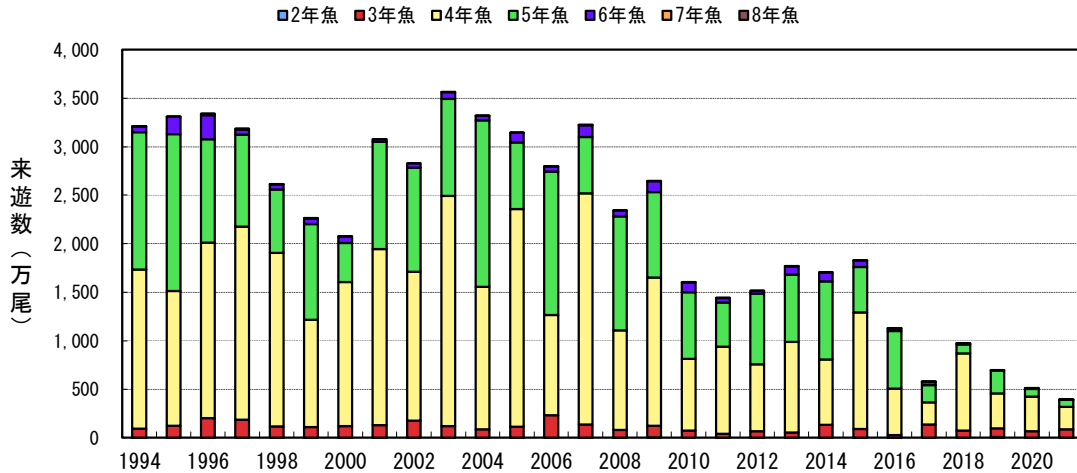


図2. 11月末時点のサケ年齢別来遊数（北海道太平洋）.

北海道太平洋側の年級群（生まれ年）ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数（2～4年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の23%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数（2～5年魚の来遊数）は、1992年級以降の平均の25%となっています（図3）。

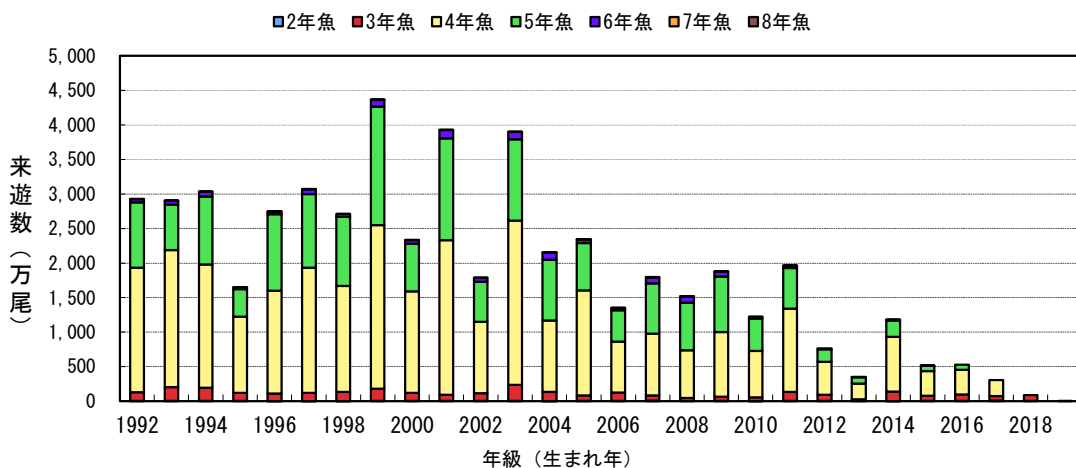


図3. 11月末時点のサケ年級群（生まれ年）別来遊数（北海道太平洋）.

(北海道日本海)

北海道日本海側(オホーツク海区および日本海区)の年齢別の来遊数は、4年魚(2017年級)が全体の58%と最も多く、次に5年魚(2016年級)が25%を占め、3年魚(2018年級)が16%と続いています。4年魚は前年同期の83%、平年同期の82%となっています。5年魚は前年同期の420%となっていますが、平年同期の52%となっており、1994年以降で4番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の132%、平年同期の220%となっています(図4)。

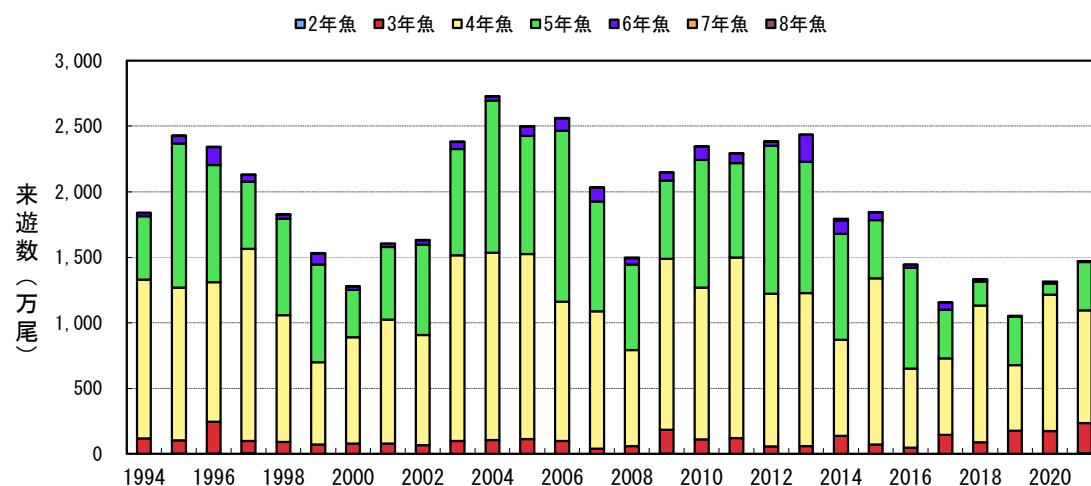


図4. 11月末時点のサケ年齢別来遊数(北海道日本海).

北海道日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の92%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の87%となっています(図5)。

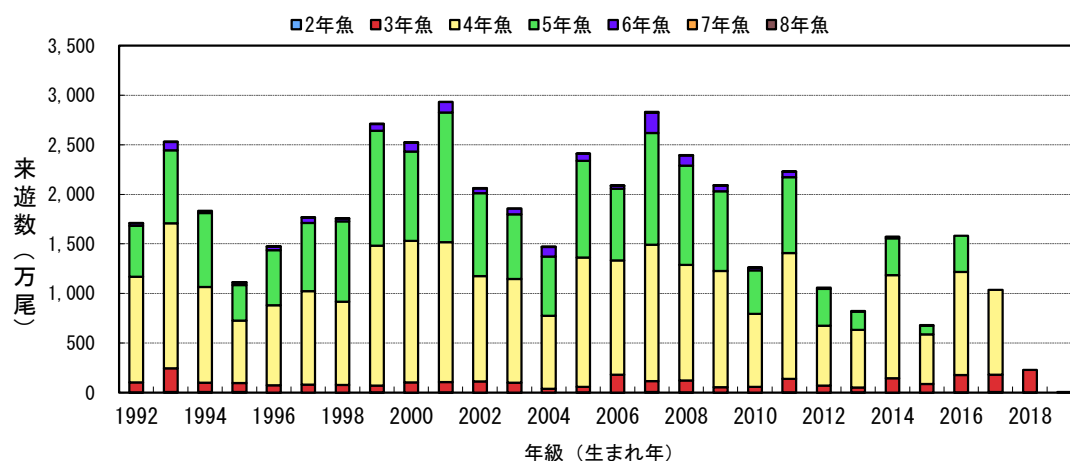


図5. 11月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(北海道日本海).

(本州太平洋)

本州太平洋側では、4年魚(2017年級)が全体の60%を占めて最も多く、次に3年魚(2018年級)が22%を占め、5年魚(2016年級)が16%と続いています。4年魚は前年同期の23%、平年同期の3%となっており、1994年以降では最も少なくなっています。5年魚は前年同期の110%、平年同期の1%となっており、1994年以降で2番目に少ない状況です。また、3年魚は前年同期の31%、平年同期の5%となっています(図6)。

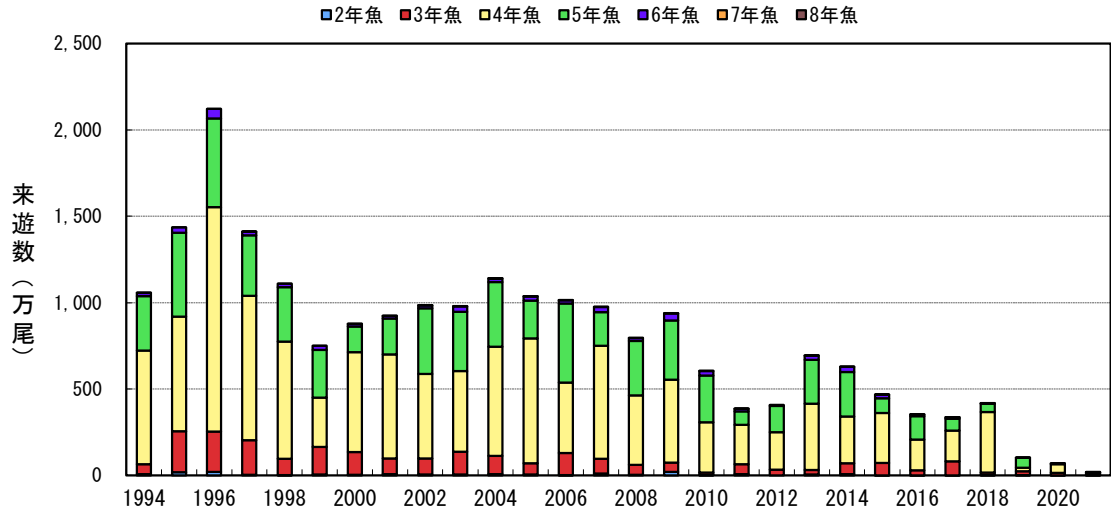


図6. 11月末時点のサケ年齢別来遊数(本州太平洋).

本州太平洋側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の5%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の10%となっています(図7)。

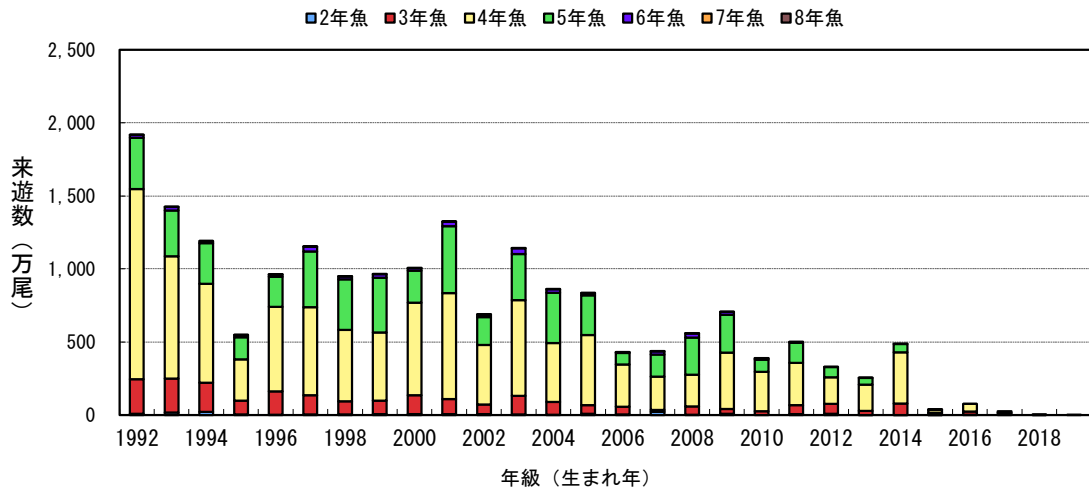


図7. 11月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州太平洋).

(本州日本海)

本州日本海側の年齢別の来遊数は、3年魚(2018年級)が全体の45%と最も多く、次に4年魚(2017年級)が39%を占め、5年魚(2016年級)が11%と続いています。4年魚は前年同期の29%、平年同期の25%となっており、5年魚は前年同期の193%、平年同期の28%でどちらも1994年以降で2番目に少なくなっています。また、3年魚は前年同期の54%、平年同期の78%となっています。(図8)。

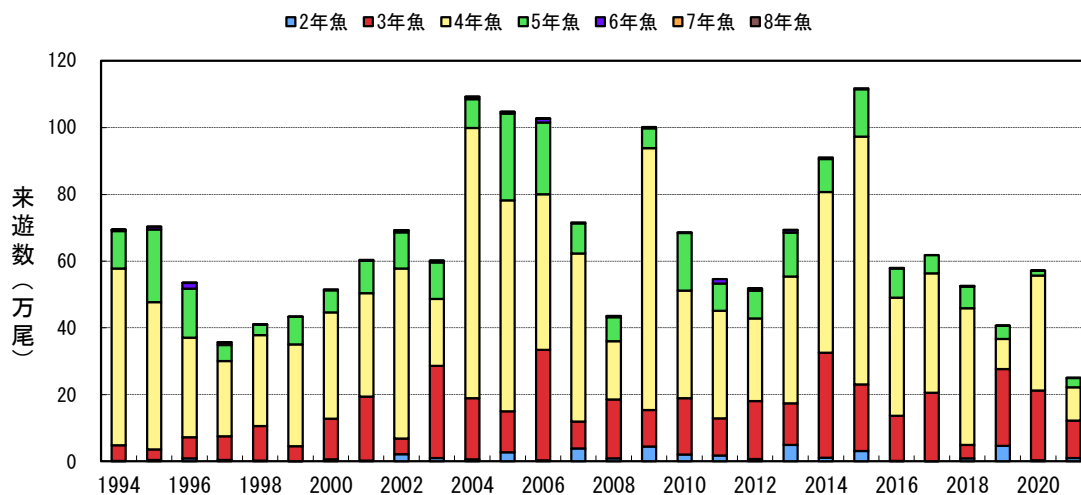


図8. 11月末時点のサケ年齢別来遊数(本州日本海).

本州日本海側の年級群(生まれ年)ごとの来遊数をみると、今年の4年魚である2017年級の来遊数(2~4年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の64%となっています。また、5年魚である2016年級の来遊数(2~5年魚の来遊数)は、1992年級以降の平均の94%となっています(図9)。

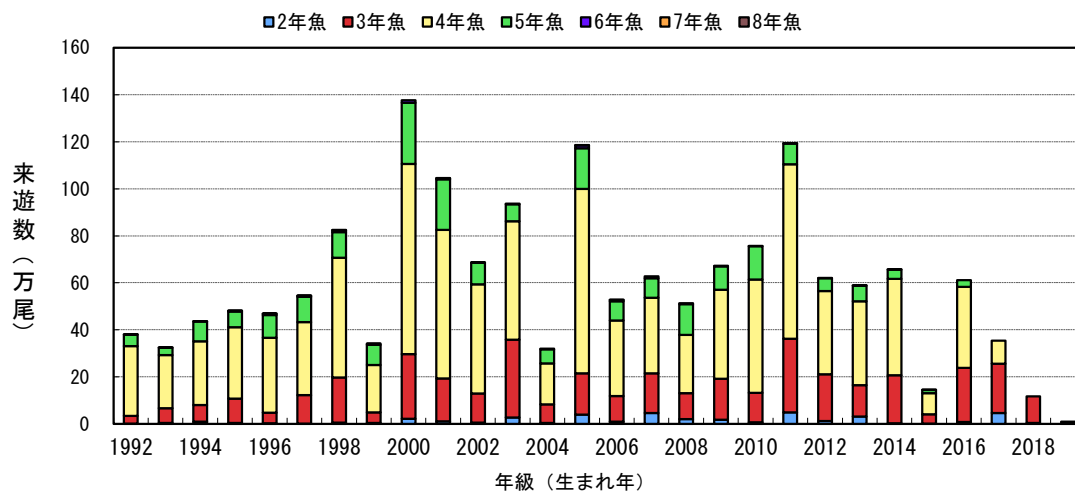


図9. 11月末時点のサケ年級群(生まれ年)別来遊数(本州日本海).

・サケの体サイズ
(北海道)

北海道における11月末現在のサケ1尾当たりの平均体重(漁獲数と漁獲重量から算出)は3.19kgであり、前年同期の平均体重3.15kgとほぼ同等となっています(図10)。

また、北海道の主要河川に11月末までに回帰したサケ4年魚の平均尾叉長は66.4cmであり、前年同期の平均尾叉長66.6cmとほぼ同等となっています(図11)。

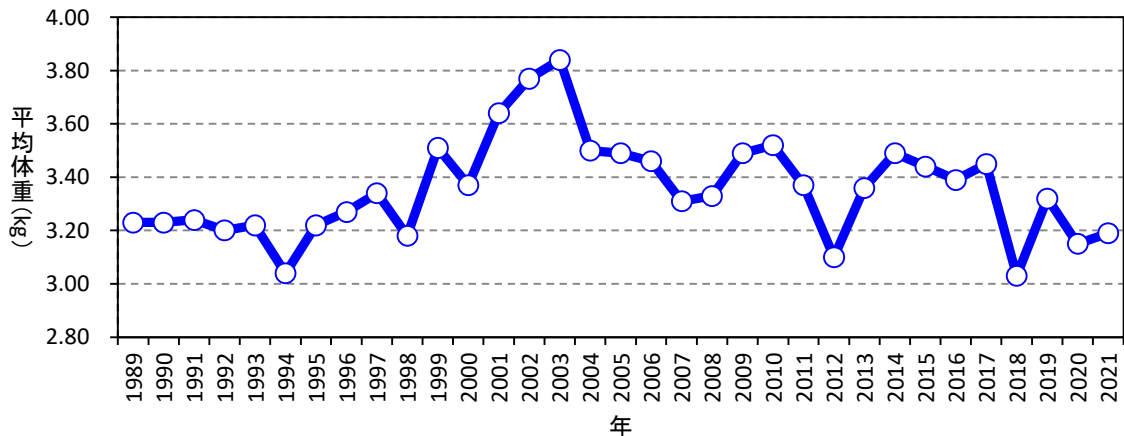


図10. 11月末時点のサケ平均体重(北海道).

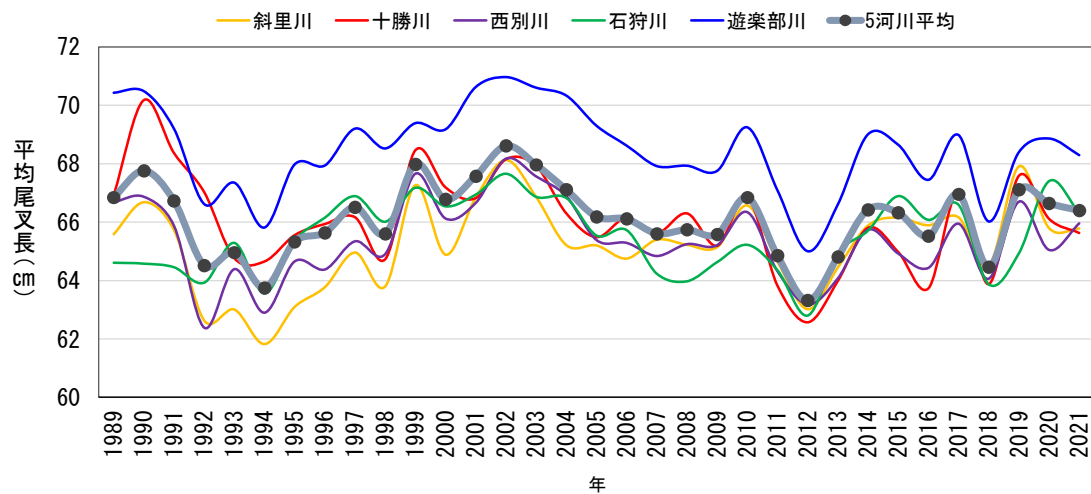


図11. 11月末時点の北海道の主要河川におけるサケ4年魚の平均尾叉長.

(本州)

本州における 11 月末現在のサケ 1 尾当たりの平均体重 (漁獲数と漁獲重量から算出) は 2.90kg であり、前年同期の平均体重 2.97kg とほぼ同等となっています (図 12)。

また、本州太平洋側の津軽石川、本州日本海側の月光川 (牛渡川) に 11 月末までに回帰したサケ 4 年魚の平均尾叉長はそれぞれ 67.8cm、68.2cm であり、前年同期の平均尾叉長のそれぞれ 69.2cm、69.3cm から若干小さくなっています (図 13)。

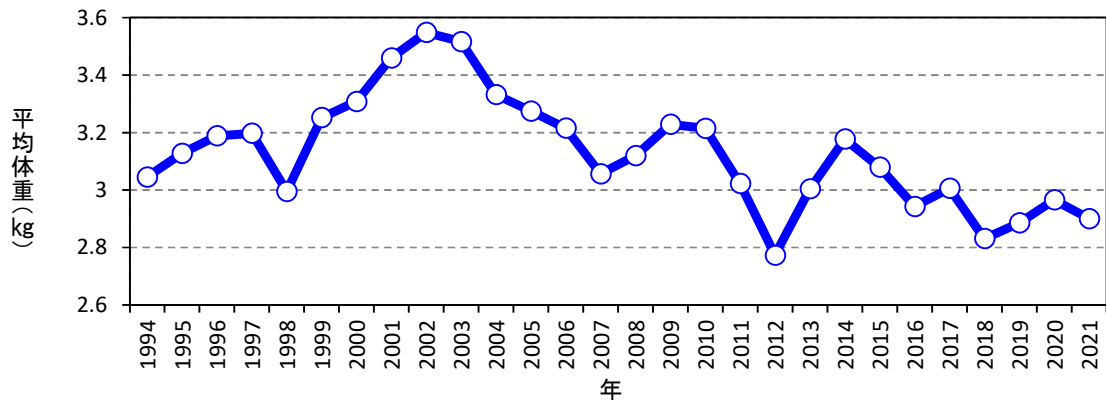


図 12. 11 月末時点のサケ平均体重 (本州).

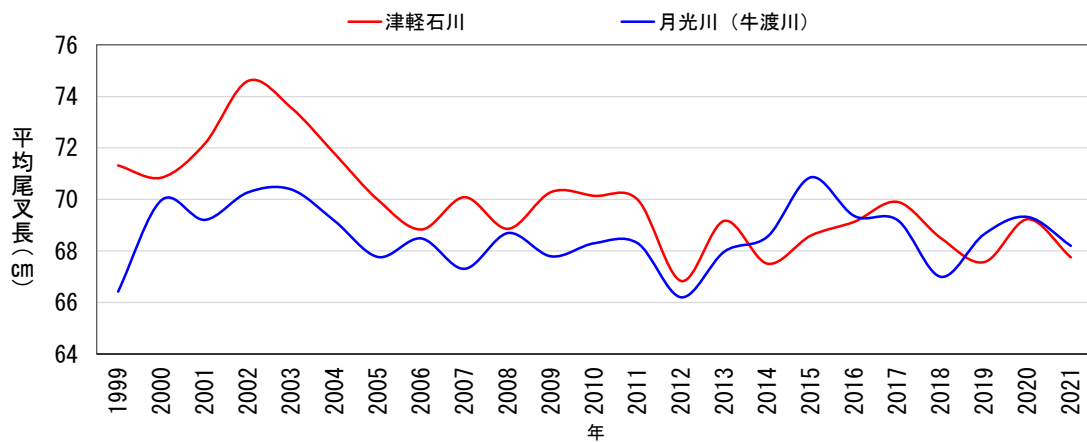


図 13. 11 月末時点の本州 2 河川におけるサケ 4 年魚の平均尾叉長.